紋別市地域公共交通活性化協議会における地域公共交通確保維持改善事業の概要

事業実施の目的・必要性

紋別市では、公共交通を取り巻く問題、課題解決のため、平成21年2月に「紋別市地域公共交通総合連携計画」を策定し、サービス水準を維持したまま、効率的で継続可能な地域交通体系の構築を目指している。

連携計画では「バス路線網の再編・公共交通空白地帯の対策の推進」に係る事業を行うこととし、その一事業として、放物線上に延びていた市内4路線を2つの循環線(北循環線・南循環線)に統合・再編し、平成23年度から本格運行を開始している。上藻別線は、少人数の需要に効率的な運行方法等として、平成24年度から一部区間を予約制により本格運行している。

上記路線は、いずれも地域間幹線系統の5路線（上渚滑線、滝上線、遠軽線、興部線、雄武線）と紋別バスターミナルを共有し、乗継の際の割引や高齢者等に対するバス料金の助成を行うなどフィーダー線と地域間幹線を一体化した公共交通ネットワークを構築している。

今後も人口減少、高齢化社会の対応に向け、なお一層の効率的で利便性が高い継続可能な公共交通の構築と確保・維持が求められている。

そのため、平成30年3月に「紋別市地域公共交通網形成計画」を策定し、まちづくりや福祉、教育、観光などと連携した面的で持続可能な公共交通網の再構築を目指すこととした。

また、利便性が高く継続可能な公共交通を目指すため、バス待合所の整備やバスロケーションシステムの導入などを進めるとともに、商店街連携イベントを行うことで中心市街地の活性化を図り、運転免許証自主返納者へのバス券の付与等を行うことでの交通安全面への寄与など、今後も公共交通に対しての期待や利用拡大が求められている。

地域公共交通の現況

・地域間幹線系統
（上渚滑線、滝上線、遠軽線、興部線、雄武線）
・都市間バス
（紋別～旭川、紋別～札幌）
・スクールバス
（中渚滑エリア、元紋別・小向エリア、沼の上エリア、宇津々エリア、藻別エリア、上渚滑エリア、中立牛エリア）

協議会開催状況

①令和3年6月　　令和3年度第１回協議会（書面）
・R2年度事業、決算報告、R3年度事業計画（案）、予算（案）
・R3年度フィーダー計画の変更について
・R4年度フィーダー計画について
②令和4年1月　　令和3年度第2回協議会
・R3年度地域公共交通確保維持改善事業の事業評価について 他
③令和4年6月
・R3年度事業、決算報告、R4年度事業計画（案）、予算（案）
・南北循環線のバス環境整備について
・R5年度フィーダー計画について
④令和5年1月
・R4年度地域公共交通確保維持改善事業の事業評価について 他

生活交通確保維持改善計画の目標

○フィーダー系統路線目標値
1　南循環線目標値（利用者数）　84.9人／日
2　北循環線目標値（利用者数）　84.7人／日
3　上藻別デマンド線（利用者数）　7.2人／日

○商店街連携イベント目標値
1　商店街参加店舗数　47店舗
2　商店街利用券数　1,500枚
3　バス利用者参加者数　900人

○車両取得目標値
令和3年度南北循環線の利用者数より1％以上増加

令和４年度事業概要

○市内循環線　～　・南循環線(紋別高校～紋別BT～紋別高校)　【運行日数　364日/運行回数　4,717回】
（1乗車/210円）　・南循環線②(紋別高校～紋別BT～広域紋別病院北口～紋別高校)　【運行日数　247日/運行回数　244回】
・北循環線(サッポロDS前～紋別BT～サッポロDS前)　【運行日数　364日/運行回数　4,717回】
・北循環線②(サッポロDS前～紋別BT～紋別高校)／北循環線③(紋別BT～大日寺前～サッポロDS前)【運行日数　247日/運行回数　121.5回】
○上藻別デマンド線（駅逓～公住前～元紋別～南が丘4～紋別BT）　※駅逓～公住前はデマンド区間　【運行日数　364日/運行回数　1,332.5回】
（1乗車/南が丘4～紋別BT　210円/元紋別～紋別BT　310円/駅逓～紋別BT　520円）

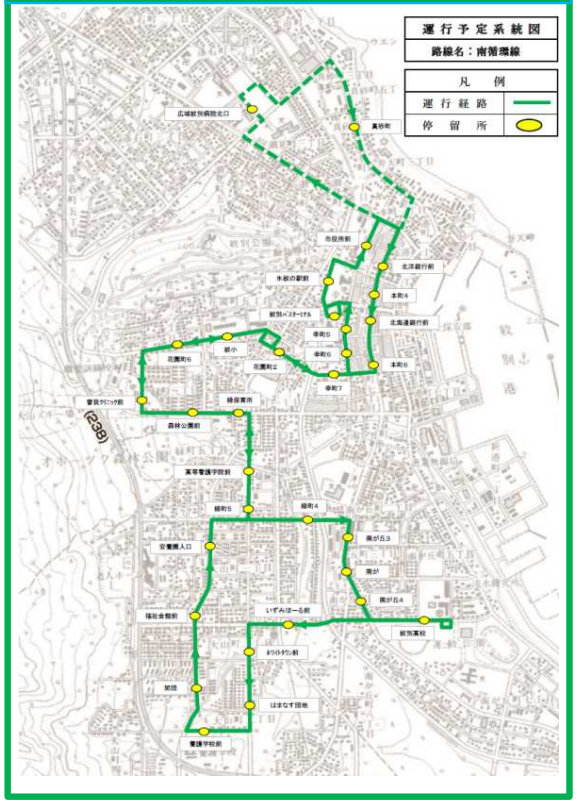
令和４年度事業の実施状況

１）プロセス、創意工夫

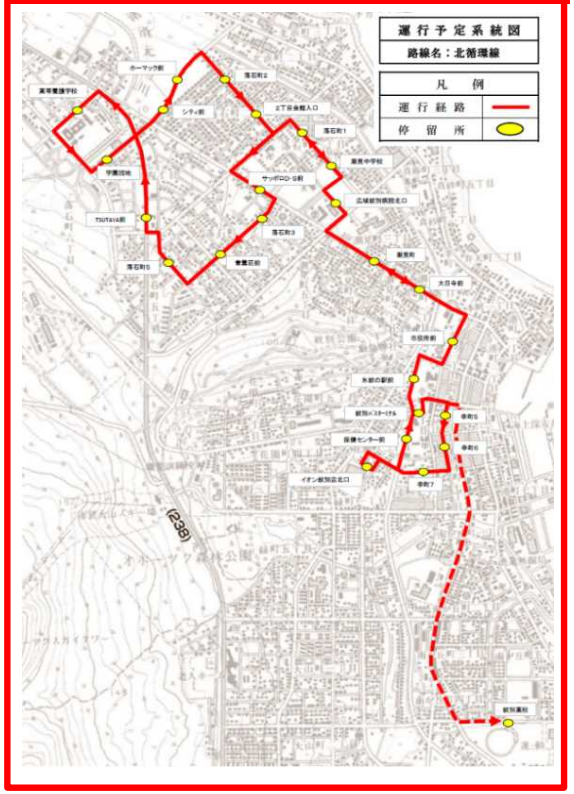
・平成31年4月より通学距離が6km以上に限っていた紋別高等学校生徒に対する定期券購入費補助を全生徒に対象を拡大し、定期券購入費の半額を補助することにより通学支援と利用者の増加を図った。
・平成31年4月より外国人技能実習生に対し「バス乗車証」を交付し、１乗車につき100円でバス利用できる運賃助成を実施することにより、日常生活の支援と新たなバス利用者の開拓を図った。
・「バスの乗り方教室」（市民組織「乗ろうよバスの会」主催、当協議会後援）を実施し、参加者にバスの利用方法等を学んでもらい、利用促進を図った。
・運転免許証を自主返納された方用に割安定期券の販売を実施したほか、会員特典としてバス券1,200円分が付与される「乗ろうよバスの会」 の入会金を初年度のみ当協議会が負担し、新規バス利用者の獲得に努めた。
・乗降車の多い停留所にバス待合所を設置し、雨風及び吹雪から利用者を守る等、利用者の利便性向上を図った。
・バスロケーションシステムを導入し、バスの位置や混雑状況を可視化することにより、利用者の利便性向上を図った。

２）運行系統

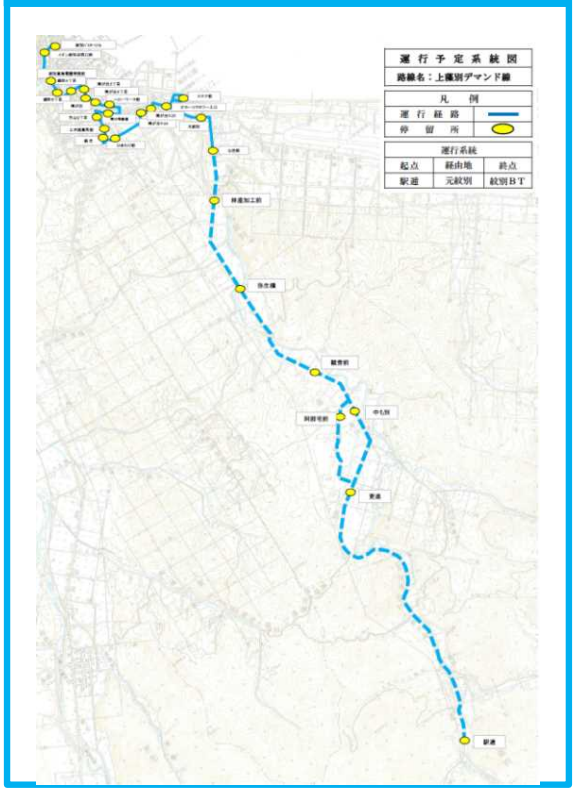
南循環線　路線図



北循環線　路線図

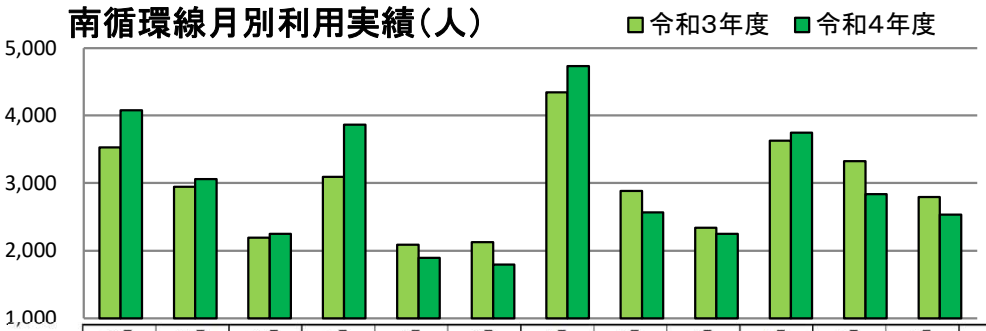


上藻別デマンド線　路線図



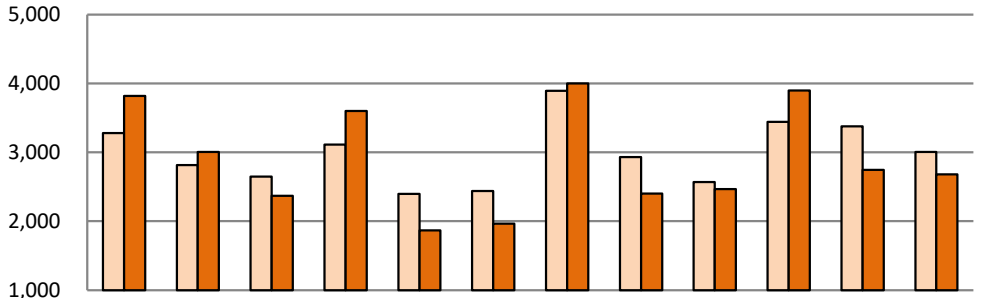
３）利用実績

南循環線月別利用実績（人）



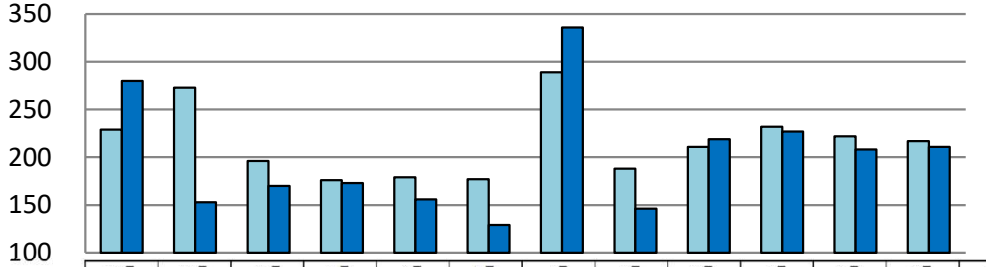
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	計
R3	3,526	2,947	2,191	3,092	2,088	2,124	4,342	2,882	2,340	3,630	3,325	2,793	35,280
R4	4,076	3,059	2,248	3,866	1,892	1,795	4,730	2,568	2,247	3,747	2,837	2,531	35,596

北循環線月別利用実績（人）



	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	計
R3	3,281	2,816	2,646	3,110	2,399	2,439	3,894	2,932	2,568	3,443	3,376	3,006	35,910
R4	3,819	3,004	2,369	3,601	1,865	1,967	3,998	2,402	2,467	3,898	2,747	2,680	34,817

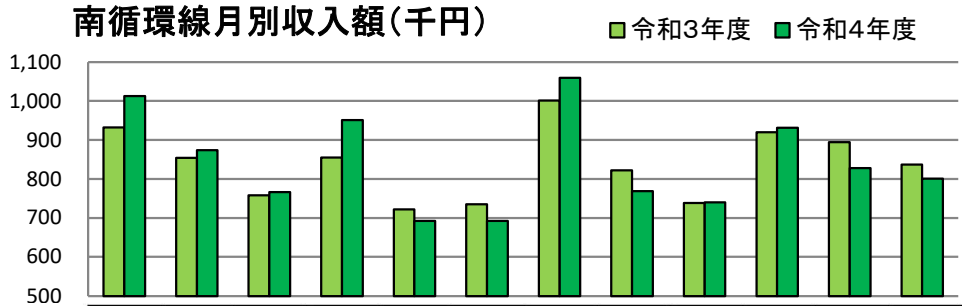
上藻別デマンド線月別利用実績（人）



	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	計
R3	229	273	196	176	179	177	289	188	211	232	222	217	2,589
R4	280	153	170	173	156	129	336	146	219	227	208	211	2,408

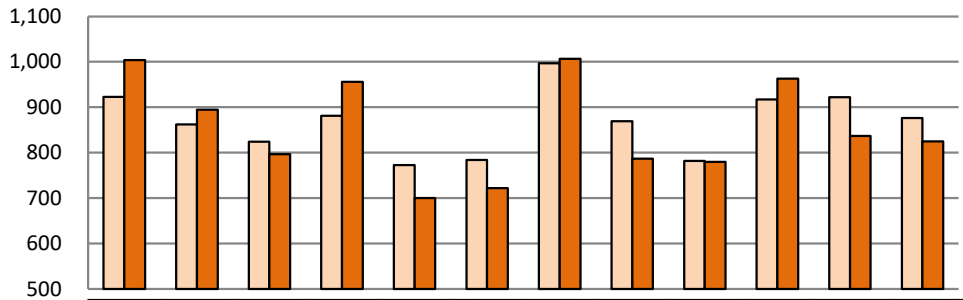
４）収入実績

南循環線月別収入額（千円）



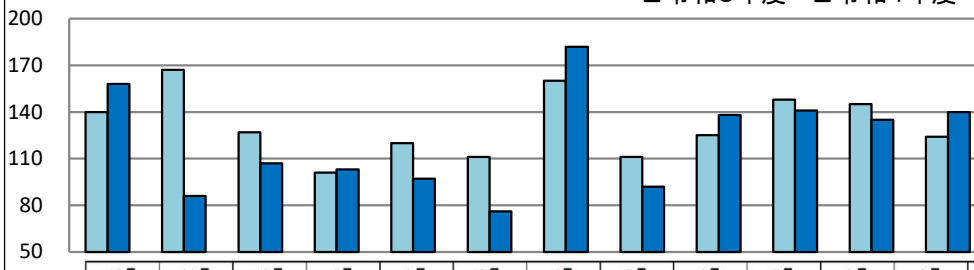
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	計
R3	932	854	758	855	722	735	1,001	822	738	920	894	837	10,068
R4	1,012	874	766	951	692	692	1,059	769	740	931	828	801	10,115

北循環線月別収入額（千円）



	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	計
R3	923	862	824	881	773	784	997	869	782	917	922	876	10,410
R4	1,004	895	797	956	700	722	1,007	787	780	963	837	825	10,273

上藻別デマンド線月別収入額（千円）



	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	計
R3	140	167	127	101	120	111	160	111	125	148	145	124	1,579
R4	158	86	107	103	97	76	182	92	138	141	135	140	1,455

5）事業実施の適切性

・計画に位置付けられたとおり、事業は適切に実施された。

6）目標・効果達成状況

・南循環線目標値 84.9人／日に対し、実績は97.8人／日となり、+12.9人／日と目標値を上回った。実績値について、令和3年度実績 96.9人／日と比較すると約1.0人／日分増加の数値となっている。一般客の外出が少しづつ戻ってきており、利用者数は回復傾向にあるが、利用者数が前年度より減少している月があり、コロナによる影響が要因であると考えられる。

・北循環目標値 84.7人／日に対し、実績は95.7人／日となり、+11.0人／日と目標値を上回った。目標値は上回ったが、令和3年度実績 98.7人／日と比較すると3.0人／日分減少の数値となっている。一般客の外出が少しづつ戻ってきており、利用者数は回復傾向にあるが、利用者数が前年度より減少している月があり、コロナによる影響が要因であると考えられる。また、北循環線は外国人技能実習生が多く利用しており、コロナによる入国制限の影響により、令和2年度と令和3年度は新しく受入ができなかったため、市内在住の外国人技能実習生数が減少し、それに伴う利用者数の減少が要因として考えられる。

・上藻別デマンド線目標値 7.2人／日に対し、実績は6.6人／日となり、▲0.6人／日と目標値を下回った。上藻別デマンド線は外国人技能実習生の利用が多いが、コロナによる入国制限により、令和2年度と令和3年度に新しく受入ができなかった。そのため、市内在住の外国人技能実習生数が減少し、それに伴う利用者数の減少が要因として考えられる。また、コロナによる影響も要因として考えられる。

・商店街連携イベントの目標値と実績値について
目標値：参加店舗数47店舗、利用券1,500枚、参加者数900人
実績値：参加店舗数43店舗、利用券448枚、参加者数448人
新型コロナウイルス感染症の影響により、外出を控える動きがあるため、利用者数が減少した。

・車両取得に係る目標値と実績値について
目標値：令和3年度南北循環線の利用者数より1%以上増加を目指す。
実績値：【南循環線】R3 96.9人／日 R4 97.8人／日 ＋0.93%
：【北循環線】R3 98.7人／日 R4 95.7人／日 ▲3.04%
：【合　　計】R3 195.6人／日 R4 193.5人／日 ▲1.07%

・収支の改善を目指し、利用者増加へのソフト事業を行うとともに、効率的で利便性の高い地域内公共交通の確保・維持に努めており、これまでの利用実績は、概ね順調に推移している。

7）事業の今後の改善点

・今後も路線の維持・確保に向け、利用者ニーズを的確に捉え、バス事業者と緊密な連携を図り、必要に応じて路線や時刻表の見直しを行う。

・バスの乗り方教室は、町内会や老人クラブなどへ広く周知を行い、市内で行われる各種イベント等にて積極的に開催することで、身近な公共交通をより多くの市民に周知し、利便性などの理解を図る。

・運転免許証自主返納者に割安の定期券販売や1,200円分のバス券が付与される「乗ろうよバスの会」への初年度入会金を当協議会が負担し入会を促すことで、交通事故の予防を行うとともに新規バス利用者の獲得を図る。

・商店街連携イベント「乗って乗ってキャンペーン」については、中心商店街と連携し、イベントを実施することで、バス利用者を中心商店街へ誘導し、住民の外出機会を作ることで、市内の活性化及びバス利用者の増加を図る。

・バス待合環境の整備を進めていき、利用者の利便性向上を図る。

・地域公共交通におけるDX化を推進し、利用者の利便性向上に加え、バス運行における業務効率化やコスト削減を図っていく。

・新規バス利用者の増加を図るため、上記ソフト事業や利便性向上のためのPRを積極的に行う。

8）地方運輸局における二次評価結果

- 自己評価にあるとおり、事業は適切に実施されている。
- 新型コロナウイルス感染症の影響により、目標値を達成することができなかった項目があるものの、バス停留所の設置やバスロケーションシステムの導入により、南循環線及び北循環線については、目標値を大幅に上回っており、今後も引き続き、更なる利用促進の取組を期待する
- 持続可能な公共交通を維持する観点から、収支率といった事業効率の改善につながる目標を設定することもご検討いただきたい。